

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第6483347号
(P6483347)

(45) 発行日 平成31年3月13日(2019.3.13)

(24) 登録日 平成31年2月22日(2019.2.22)

(51) Int.Cl.

E O 4 H 1/02 (2006.01)

F I

E O 4 H 1/02

請求項の数 7 (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2014-67372 (P2014-67372)
 (22) 出願日 平成26年3月28日(2014.3.28)
 (65) 公開番号 特開2015-190166 (P2015-190166A)
 (43) 公開日 平成27年11月2日(2015.11.2)
 審査請求日 平成29年3月1日(2017.3.1)

(73) 特許権者 390037154
 大和ハウス工業株式会社
 大阪府大阪市北区梅田3丁目3番5号
 (74) 代理人 110001586
 特許業務法人アイミー国際特許事務所
 (72) 発明者 駒井 智弘
 大阪府大阪市北区梅田3丁目3番5号 大
 和ハウス工業株式会社内
 審査官 土屋 保光

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 建物

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

上下方向に隣接する上階および下階を含む、複数階建ての建物であって、
 前記下階から前記上階にまたがる屋内吹き抜け空間と、
 前記屋内吹き抜け空間に隣接し、下階外壁および上階外壁を含む外壁部と、
 前記下階外壁および前記上階外壁にそれぞれ設けられた、光を取り入れるための下階側
 開口部および上階側開口部と、
前記下階外壁の下端部から屋外側へ水平方向に延びる屋外床部と、
前記屋外床部上に形成され、前記下階側開口部および前記上階側開口部に隣接して配置
された屋外吹き抜け空間と、

前記外壁部の屋外側において、前記下階側開口部の下端から前記上階側開口部の途中位
置までを覆うように、前記屋外床部の屋外側端部から上方に延びる縦格子とを備え、
前記屋外吹き抜け空間は、上部を除き、前記縦格子によって覆われている、建物。

【請求項 2】

前記建物は、正面から見て横方向の広がりの規定する一対の縦フレーム部と、前記一対
 の縦フレーム部を連結する複数の横フレーム部とを備えた門型フレーム構造によって形造
 られている、請求項 1 に記載の建物。

【請求項 3】

前記下階は、前記建物の 2 階以上に位置し、
 前記屋外床部は、バルコニーである、請求項 1 または 2 に記載の建物。

10

20

【請求項 4】

前記下階外壁に隣接して屋内側に配置され、前記屋内吹き抜け空間と連通する第 1 空間と、

前記下階外壁における前記第 1 空間の前方位置に配置された第 1 開口部とをさらに備える、請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の建物。

【請求項 5】

前記縦格子は、幅方向において前記第 1 開口部の少なくとも一部をさらに覆うように配置される、請求項 4 に記載の建物。

【請求項 6】

前記屋外床部は、幅方向において、前記第 1 開口部の前方位置にまで延びている、請求項 4 または 5 に記載の建物。

10

【請求項 7】

前記屋内吹き抜け空間と幅方向に隣接するように前記上階外壁の屋内側に配置され、前記第 1 空間の上方に位置する第 2 空間と、

前記上階外壁における前記第 2 空間の前方位置に配置された第 2 開口部と、

前記第 2 開口部の屋外側に配置される上階バルコニーとをさらに備える、請求項 4 ~ 6 のいずれかに記載の建物。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

20

本発明は、複数階建ての建物に関する。

【背景技術】**【0002】**

特開 2001 - 140479 号公報（特許文献 1）には、建物の 1 階正面側に、幅方向（開口方向）に長く延びるインナーバルコニーが配置され、そのインナーバルコニーの奥に、リビングとダイニングが並べて配置された建物が開示されている。この建物において、ダイニング側に位置するインナーバルコニーの前に、複数の細木が配置されている。

【0003】

特開 2012 - 17613 号公報（特許文献 2）には、2 階のインナーバルコニーや、吹き抜けのインナーテラスの屋外側全体を覆うスラット可変シャッタが設けられた建物が開示されている。この建物において、吹き抜けのインナーテラスの屋内側には、1 階と 2 階とにそれぞれ部屋が設けられている。

30

【先行技術文献】**【特許文献】****【0004】**

【特許文献 1】特開 2001 - 140479 号公報

【特許文献 2】特開 2012 - 17613 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0005】**

40

都市などの密集した住宅群の狭小地では、多くの住宅は、その両横だけでなく正面側においても、他の住宅と近接して建てられている。このような場合、建物の正面側に大きな窓があっても、窓は常にカーテンが閉められた状態であることが多い。この場合、プライバシーは守られるものの、屋内へ光が差し込まず、暗い居住空間となってしまう。

【0006】

上述のように、インナーバルコニーやインナーテラスの前方を覆うように、複数の細木やシャッタが配置された建物も存在する。しかし、これらの建物では、プライバシーを守ることができても、屋内への採光は十分ではなかった。

【0007】

本発明は、上記のような課題を解決するためになされたものであって、その目的は、プ

50

ライバシーの保護、および、十分な採光が可能な建物を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0008】

この発明のある局面に従う建物は、上下方向に隣接する上階および下階を含む、複数階建ての建物であって、屋内吹き抜け空間と、外壁部と、下階側開口部および上階側開口部と、縦格子とを備える。屋内吹き抜け空間は、下階から上階にまたがって配置されている。外壁部は、屋内吹き抜け空間に隣接し、下階外壁および上階外壁を含む。下階側開口部および上階側開口部は、光を取り入れるために、下階外壁および上階外壁にそれぞれ設けられている。縦格子は、下階側開口部の下端から、上階側開口部の途中位置までを覆うように、外壁部の屋外側に設けられる。

10

【0009】

好ましくは、建物は、正面から見て横方向の広がりの規定する一对の縦フレーム部と、一对の縦フレーム部を連結する複数の横フレーム部とを備えた門型フレーム構造によって形造られている。

【0010】

好ましくは、外壁部と縦格子との間に設けられ、下階外壁の下端部から水平方向に延びる屋外床部をさらに備える。

【0011】

下階が、建物の2階以上に位置している場合、屋外床部は、バルコニーであってもよい。

20

【0012】

屋外床部上には、屋内吹き抜け空間の前方位置に、屋外吹き抜け空間が形成されていることが望ましい。

【0013】

好ましくは、建物は、下階外壁に隣接して屋内側に配置され、屋内吹き抜け空間と連通する第1空間と、下階外壁における第1空間の前方位置に配置された第1開口部とをさらに備える。

【0014】

縦格子は、幅方向において第1開口部の少なくとも一部をさらに覆うように配置されていてよい。

30

【0015】

屋外床部は、幅方向において、第1開口部の前方位置にまで延びていることが望ましい。

【0016】

好ましくは、建物は、屋内吹き抜け空間と幅方向に隣接するように上階外壁の屋内側に配置され、第1空間の上方に位置する第2空間と、上階外壁における第2空間の前方位置に配置された第2開口部と、第2開口部の屋外側に配置される上階バルコニーとをさらに備える。

【0017】

なお、屋内吹き抜け空間は、リビングに形成され、第1開口部は、透光性を有する掃出し窓であってもよい。この場合、第1空間は、ダイニングであってもよい。

40

【0018】

あるいは、屋内吹き抜け空間は、玄関ホールに形成され、第1開口部は、玄関扉であってもよい。

【発明の効果】

【0019】

本発明によれば、プライバシーの保護、および、十分な採光が可能となる。

【図面の簡単な説明】

【0020】

【図1】本発明の実施の形態に係る建物の正面側の外観図である。

50

【図 2】本発明の実施の形態に係る建物の上階および下階の構成例をそれぞれ示す間取り図である。

【図 3】本発明の実施の形態に係る建物の屋外占有空間を示す図である。

【図 4】本発明の実施の形態に係る建物の下階の他の構成例を示す間取り図である。

【発明を実施するための形態】

【0021】

本発明の実施の形態について図面を参照しながら詳細に説明する。なお、図中同一または相当部分には同一符号を付してその説明は繰返さない。

【0022】

図 1 を参照して、本実施の形態に係る建物 1 の概略構成について説明する。建物 1 は、たとえば、1 階 F 1、2 階 F 2、および 3 階 F 3 を含む 3 階建ての住宅である。建物 1 は、都市の狭小地に建てられており、その正面側にも、別の建物が近接位置に建てられていると仮定する。本実施の形態では、正面から見て建物 1 の横方向（左右方向）を「幅方向」、建物 1 の屋内から見て正面側（屋外側）を「前方」ともいう。

【0023】

建物 1 は、いわゆる門型フレーム構造（各階において一对の柱と梁とを門型に組む構造）によって形造られている。そのため、建物 1 の正面側には、横方向の広がりの規定する一对の縦フレーム部（壁体）9 1、9 2 と、一对の縦フレーム部を連結する複数の横フレーム部（壁体）9 3、9 4、9 5 とが配置されている。横フレーム部 9 3 は、建物 1 の上端、すなわち建物 1 の 3 階 F 3 の天井位置に配置されている。横フレーム部 9 4 は、2 階 F 2 と 3 階 F 3 との間に配置されている。横フレーム部 9 5 は、1 階 F 1 と 2 階 F 2 との間に配置されている。門型フレーム構造によって形造られた建物 1 は、強度が高く、耐震性を有している。

【0024】

図 1 に示されるように、建物 1 の 1 階 F 1 の正面側には駐車スペースが設けられているため、1 階正面の外壁 1 0 0 は、縦フレーム部 9 1、9 2 および横フレーム部 9 3 ~ 9 5 の前面（以下「フレーム部前面」という）よりも奥に配置されている。外壁 1 0 0 には、小さい開口部 1 0 1 と、玄関扉 1 0 2 とが設けられている。

【0025】

建物 1 の 2 階 F 2 および 3 階 F 3 の正面側の外壁部 8 0 も、フレーム部前面よりも奥に配置されている。本実施の形態では、建物 1 は、フレーム部前面とほぼ同じ面上に設けられた縦格子 6 0 を備えている。縦格子 6 0 は、建物 1 の 2 階 F 2 から 3 階 F 3 にかけて配置されている。

【0026】

以下に、図 2 をさらに参照して、縦格子 6 0 を含む、建物 1 の 2 階 F 2 および 3 階 F 3 の特徴的な構成について、詳細に説明する。図 2（A）、（B）には、それぞれ、建物 1 の 2 階 F 2（下階）および 3 階 F 3（上階）の構成が示されている。

【0027】

本実施の形態では、建物 1 の 2 階 F 2 および 3 階 F 3 のうち、外壁部 8 0 よりも屋内側（後方）に位置する空間を「屋内占有空間 8 1」、外壁部 8 0 よりも屋外側（前方）、かつ、フレーム部前面よりも後方に位置する空間を「屋外占有空間 8 2」という。屋外占有空間 8 2 も、建物 1 の居住者の占有空間の一部である。正面の外壁部 8 0 は、2 階外壁 2 0 0 と 3 階外壁 3 0 0 とで構成されている。

【0028】

まず、建物 1 の屋内占有空間 8 1 側の構成について説明する。図 2 に示されるように、屋内占有空間 8 1 のうち、外壁部 8 0 に隣接する位置には、2 階 F 2 から 3 階 F 3 にまたがる屋内吹き抜け空間 4 0 が設けられている。屋内吹き抜け空間 4 0 は、2 階 F 2 の居住空間、たとえばリビング 2 1 に形成されている。

【0029】

また、屋内占有空間 8 1 のうち、建物 1 の 2 階外壁 2 0 0 に隣接する位置に、たとえば

10

20

30

40

50

ダイニング２２が設けられている。ダイニング２２は、リビング２１すなわち屋内吹き抜け空間４０と連通する居住空間（第１空間）である。つまり、リビング２１とダイニング２２との間の少なくとも２階外壁２００側には、仕切り壁が存在していない。リビング２１は、一方の縦フレーム部９１寄りに位置し、ダイニング２２は、他方の縦フレーム部９２寄りに位置している。

【００３０】

同様に、屋内占有空間８１のうち、建物１の３階外壁３００に隣接する位置に、たとえば寝室３２が設けられている。寝室３２は、屋内吹き抜け空間４０と幅方向に隣接する居住空間（第２空間）である。寝室３２は、ダイニング２２の上方に位置している。

【００３１】

２階外壁２００には、屋外の光を屋内に取り入れるための開口部２０１，２０２が、幅方向に隣り合って設けられている。開口部２０１は、リビング２１すなわち屋内吹き抜け空間４０の前方に設けられている。開口部２０１は、屋内吹き抜け空間４０の横幅と略同じ幅寸法を有する開閉可能な窓であり、たとえば腰高窓である。開口部２０１の上端は、２階Ｆ２の天井高さ付近に位置することが望ましいが、開口部２０１の下端は、２階Ｆ２の腰高さ付近に限定されず、床高さ付近であってもよい。なお、「腰高さ」とは、起立した成人の腰の位置付近の高さを表し、たとえば１００～１２０ｃｍ程度である。

【００３２】

開口部２０２は、ダイニング２２の前方に設けられている。開口部２０２は、ダイニング２２の横幅と略同じ幅寸法を有する開閉可能な窓であり、たとえば掃出し窓である。このように、２階外壁２００には、２つの開口部２０１，２０２によって大開口が形成されている。

【００３３】

３階外壁３００にも、屋外の光を屋内に取り入れるための開口部３０１，３０２が、幅方向に隣り合って設けられている。開口部３０１は、屋内吹き抜け空間４０の前方に設けられている。つまり、開口部３０１は、２階Ｆ２の開口部２０１の上に位置している。開口部３０１は、屋内吹き抜け空間４０の横幅と略同じ幅寸法を有する窓であり、たとえばＦＩＸ窓であってもよい。開口部３０１の下端は、３階Ｆ３の床高さ付近に位置していることが望ましい。開口部３０１の上端は、腰高さ付近および天井高さ付近のいずれであってもよい。

【００３４】

開口部３０２は、寝室３２の前方に設けられている。開口部３０２は、寝室３２の横幅と略同じ幅寸法を有する開閉可能な窓であり、たとえば掃出し窓である。このように、３階外壁３００にも、２つの開口部３０１，３０２によって大開口が形成されている。なお、建物１の強度が維持できれば、屋内吹き抜け空間４０の前方に位置する２階Ｆ２の開口部２０１と３階Ｆ３の開口部３０１とは、一続きの窓として形成されてもよい。

【００３５】

寝室３２と屋内吹き抜け空間４０との境界には、仕切り壁３２０が配置されている。仕切り壁３２０は、３階Ｆ３の床面高さから天井高さまで延びている。仕切り壁３２０の腰高さより上の位置には、開閉可能な屋内開口部３２１が設けられていることが望ましい。屋内開口部３２１は、たとえば障子窓である。屋内開口部３２１は、透光性を有していてもよい。この場合、屋内開口部３２１を開放することで、３階Ｆ３の寝室３２から２階のリビング２１を見下ろすことができる。したがって、３階Ｆ３の居住空間と２階Ｆ２の居住空間とに、上下の繋がりを持たせることができる。

【００３６】

次に、図３をさらに参照して、建物１の屋外占有空間８２側の構成について説明する。図３には、幅方向一方側（一方の縦フレーム部９１側）から見た屋外占有空間８２が示されている。

【００３７】

屋外占有空間８２には、２階外壁２００の開口部２０１，２０２の前方に位置する幅広

10

20

30

40

50

のインナーバルコニー 2 3 と、3 階外壁 3 0 0 の開口部 3 0 2 の前方に位置するインナーバルコニー 3 3 とが形成されている。

【 0 0 3 8 】

2 階 F 2 のインナーバルコニー 2 3 は、2 階外壁 2 0 0 の下端部から前方に向けて水平方向に延びる屋外床部を形成している。インナーバルコニー 2 3 の上面（床面）2 3 0 は、幅方向一端から他端まで、段差なくフラットであることが望ましい。インナーバルコニー 2 3 の前端の立上り部 2 3 1 の前面は、フレーム部前面と同じ面上に位置している。

【 0 0 3 9 】

ここで、本実施の形態では、インナーバルコニー 2 3 上にも、屋外吹き抜け空間 5 0 が形成されている。屋外吹き抜け空間 5 0 は、屋内吹き抜け空間 4 0 の前方位位置に設けられている。つまり、屋外吹き抜け空間 5 0 は、2 階 F 2 の開口部 2 0 1、および、3 階 F 3 の開口部 3 0 1 の前方（屋外側）に配置されている。

10

【 0 0 4 0 】

3 階 F 3 のインナーバルコニー 3 3 は、3 階外壁 3 0 0 の下端部から前方に向けて水平方向に延びる屋外床部を形成している。インナーバルコニー 3 3 は、幅方向において、屋外吹き抜け空間 5 0 と隣接する。そのため、3 階 F 3 のインナーバルコニー 3 3 の下面 3 3 0 が、2 階 F 2 のインナーバルコニー 2 3 のうちのダイニング 2 2 側の天井面となる。インナーバルコニー 3 3 と屋外吹き抜け空間 5 0 との上方には、3 階外壁 3 0 0（外壁部 8 0）の上端部と横フレーム部 9 3 との間に位置する屋外天井部 9 6 が配置されている。

【 0 0 4 1 】

20

上述のように、建物 1 の正面には、上記した縦格子 6 0 が設けられている。縦格子 6 0 は、複数の細長い縦材により構成され、隣り合う縦材間には隙間がある。そのため、縦格子 6 0 は、通気性と透光性とを有し、ルーバーのような機能を果たす。縦格子 6 0 は、縦材よりも少ない横材を含んでいてもよい。

【 0 0 4 2 】

縦格子 6 0 は、上下方向において、少なくとも 2 階 F 2 の開口部 2 0 1 の下端から 3 階 F 3 の開口部 3 0 1 の途中位置までを覆うように配置されている。具体的には、縦格子 6 0 は、1 階 F 1 と 2 階 F 2 との間に位置する横フレーム部 9 5 の下端から、2 階 F 2 と 3 階 F 3 との間に位置する横フレーム部 9 4 を超えて、3 階 F 3 のインナーバルコニー 3 3 の腰高壁 3 4 の上端高さ付近にまで延びている。また、縦格子 6 0 は、幅方向において、少なくとも開口部 2 0 1（3 0 1）の横幅全てを覆うように配置されている。縦格子 6 0 は、ダイニング 2 2 前の開口部 2 0 2 の一部をさらに覆っていることが望ましい。縦格子 6 0 の幅方向一方端は、一方の縦フレーム部 9 1 上に重なっていてもよい。

30

【 0 0 4 3 】

縦格子 6 0 が上記のような位置に配置されるため、リビング 2 1 の前方に位置するインナーバルコニー 2 3 は、外壁部 8 0 と縦格子 6 0 との間に配置される。また、屋外吹き抜け空間 5 0 は、上部を除き、縦格子 6 0 によって覆われる。

【 0 0 4 4 】

縦格子 6 0 は、インナーバルコニー 2 3 の立上り部 2 3 1 の前面（横フレーム部 9 4，9 5 の前面）に当接または近接した状態で、固定されている。そのため、インナーバルコニー 2 3 のダイニング 2 2 側の立上り部 2 3 1 には、腰高壁 2 4 が設けられているが、リビング 2 1 側の立上り部 2 3 1 には、腰高壁が設けられていなくてもよい。腰高壁 2 4 は、縦格子 6 0 が無い範囲にさえ配置されていれば、ダイニング 2 2 前の開口部 2 0 2 の全幅に亘って配置されなくてもよい。腰高壁 2 4 は、透光性を有していることが望ましい。

40

【 0 0 4 5 】

3 階 F 3 のインナーバルコニー 3 3 の腰高壁 3 4 は、インナーバルコニー 3 3 の前方と、屋外吹き抜け空間 5 0 側の側部とに配置されている。この腰高壁 3 4 も、透光性を有していることが望ましい。

【 0 0 4 6 】

なお、インナーバルコニー 2 3，3 3 の他方側（縦フレーム部 9 2 側）の側部には、そ

50

れぞれ、たとえば側壁 9 7 が設けられている。側壁 9 7 は、天井部との間に開口を有していてもよい。または、側壁 9 7 に代えて、透光性を有する腰高壁が設けられていてもよい。また、インナーバルコニー 2 3 の一方側（縦フレーム部 9 1 側）の側部にも、側壁 9 8 が配置されてもよいし、透光性を有する腰高壁が設けられてもよい。

【 0 0 4 7 】

以上説明したように、屋内吹き抜け空間 4 0 が形成されたリビング 2 1 の前方には、開口部 2 0 1 , 3 0 1 がそれぞれの階に設けられている。また、建物 1 の正面には、開口部 2 0 1 の下端から開口部 3 0 1 の途中位置まで覆うように、目隠しとなる縦格子 6 0 が配置されている。そのため、建物 1 の正面に位置する道路からの視線が遮られることはもとより、建物 1 の正面側に近接して建てられた他の建物から見下ろされることもなくなる。また、縦格子 6 0 の隙間からの採光も可能である。

10

【 0 0 4 8 】

さらに、開口部 3 0 1 の上部は、光を遮るものがないため、十分な採光が可能となる。そのため、密集した住宅地に建てられた建物 1 であっても、空を近くに感じ取ることもできる。さらに、開口部 2 0 1 を開放した場合には、縦格子 6 0 の隙間を通り抜ける風をリビング 2 1 内に取り込むこともできる。したがって、リビング 2 1 は、開放的であるだけでなく、プライバシーの保護と明るさを兼ね備えた居心地の良い居住空間となる。

【 0 0 4 9 】

また、2 階外壁 2 0 0 と縦格子 6 0 との間には、インナーバルコニー 2 3 が形成されている。この場合、インナーバルコニー 2 3 がバッファとなり、縦格子 6 0 による閉塞感を緩和することができる。また、外部からの視線がリビング 2 1 にまで届き難くなるため、開口部 2 0 1 に沿ってソファ 7 1 を置くこともできる。居住者は、開口部 2 0 1 をカーテンで覆わなくても、ソファ 7 1 に座った状態で寛ぐことができる。

20

【 0 0 5 0 】

また、リビング 2 1 と連通するダイニング 2 2 前には、（少なくとも一部が）縦格子 6 0 に覆われていない開口部 2 0 2 が配置されている。そのため、居住者が活動的に動くダイニング 2 2 は、光に満ち溢れた明るい空間となる。また、開口部 2 0 2 を通過する光はリビング 2 1 側にまで届くため、リビング 2 1 の採光性が高められる。また、開口部 2 0 2 前の腰高壁 2 4 が透光性を有している場合には、リビング 2 1 およびダイニング 2 2 をより明るい空間とすることができる。

30

【 0 0 5 1 】

また、インナーバルコニー 2 3 には、ダイニング 2 2 側の開口部（掃出し窓）2 0 2 から出入りすることができ、その床面 2 3 0 はフラットである。また、リビング 2 1 側の前方は、縦格子 6 0 によって覆われている。したがって、縦格子 6 0 で覆われた部分（開口部 2 0 1 前）に、デッキテーブル 7 2 およびデッキチェア 7 3 を置いて、寛ぐこともできる。

【 0 0 5 2 】

また、インナーバルコニー 2 3 のうち、リビング 2 1 の前方は、屋外吹き抜け空間 5 0 となっている。つまり、2 階 F 2 の天井高さには、屋外側へ突出する構造物（たとえば 3 階 F 3 のインナーバルコニー）が存在しない。したがって、インナーバルコニー 2 3 においても、開放的に過ごすことができる。また、3 階 F 3 のインナーバルコニー 3 3 から、2 階 F 2 のインナーバルコニー 2 3 を見下ろすことができるため、屋外占有空間 8 2 においても、上下の繋がりを持たせることができる。

40

【 0 0 5 3 】

また、建物 1 の正面は、狭小地に建てられた住宅の居住者の多くが望む、3 つの価値観（要望）が視覚化されている。1 つ目は、一対の縦フレーム部 9 1 , 9 2、および、複数の横フレーム部 9 3 ~ 9 5 によって視覚化される「フレーム」である。フレームは、力強さ、すなわち耐震性を表わしている。2 つ目は、縦格子 6 0 によって視覚化される「スクリーン」である。スクリーンは、プライバシー性（プライバシーの保護）を表わしている。3 つ目は、2 階外壁 2 0 0 および 3 階外壁 3 0 0 に設けられた開口部 2 0 1 , 2 0 2 ,

50

301, 302によって視覚化される「大開口」である。大開口は、光（明るさ）を表わしている。したがって、建物1の正面の外観によっても、居住者が感じる安心感や開放感を増長させることができる。

【0054】

また、門型のフレーム部91～95と、外形が矩形形状の縦格子60とが組み合わせられることで、建物1の正面の意匠性を向上させることもできる。

【0055】

なお、本実施の形態では、2階外壁200に沿って、リビング21とダイニング22とが設けられることとしたが、リビング21とダイニング22の位置は逆であってもよい。つまり、ダイニング22に、屋内吹き抜け空間40が形成されてもよい。また、2階外壁200に沿う居住空間は、リビング21およびダイニング22に限定されない。

10

【0056】

また、2階外壁200に沿う居住空間は、1種類のみであってもよい。つまり、寝室32の下方に配置される空間（第1空間）と、屋内吹き抜け空間40とが、1つの居住空間（たとえばリビング）を形成していてもよい。

【0057】

また、建物1は、3階建てに限定されず、複数階建ての建物であればよい。たとえば、建物が4階建ての場合、建物1の2階および3階を、それぞれ3階および4階と読み替えてもよい。

【0058】

20

また、建物が2階建てであるような場合には、屋内吹き抜け空間40および屋外吹き抜け空間50は、1階F1から2階F2にまたがって配置されてもよい。この場合、屋内吹き抜け空間40は、1階F1の玄関ホールに形成されてもよい。この場合の建物の構成例について、図4を用いて説明する。

【0059】

図4は、建物1Aの玄関ホール11に屋内吹き抜け空間40が形成された場合の1階正面側の構成例を示す間取り図である。なお、この建物1Aの2階の構成は、建物1の3階F3の構成と同様であってもよい。建物1Aの1階F1の正面側の構成のうち、建物1の2階F2の構成と異なる部分のみ以下に説明する。

【0060】

30

図4を参照して、1階F1の屋内占有空間81には、1階外壁100Aに沿って、玄関ホール11と、玄関土間12とが配置されている。玄関ホール11の前方には、上記した開口部201と同様の開口部101Aが設けられている。開口部101Aは、1階外壁100Aに設けられ、玄関ホール11の横幅とほぼ同じ幅寸法を有している。玄関ホール11は、屋内吹き抜け空間40となっており、2階外壁（図示せず）にも、屋内吹き抜け空間40に隣接する位置に、上記した開口部301と同様の開口部（図示せず）が設けられている。

【0061】

1階外壁100Aのうち、玄関土間12の前方には、開口部としての玄関扉102が設けられている。玄関扉102は、たとえば、1階外壁100Aの中央寄りに配置されている。玄関土間12の上方（2階）には、寝室などの居住空間（第2空間）が配置されている。

40

【0062】

1階F1の屋外占有空間82には、インナーバルコニー23に代えて、屋外床部としての玄関前通路13が設けられている。この場合、縦格子60と他方の縦フレーム部92との間は、居住者が玄関前通路13に出入りできるように開放されていてもよい。また、縦フレーム部92と外壁100Aとの間も、居住者が出入りできるように開放されていてもよい。なお、玄関前通路13は、玄関扉102の前が高くなるようにスロープ状になっていてもよい。または、玄関前通路13全体が、正面の道路と面一状であってもよい。

【0063】

50

図４に示されるように、玄関扉１０２は、縦格子６０によって隠される位置に配置されることが望ましい。玄関扉１０２を開放して居住者が出入りする際に、建物１Ａ内の様子が外部から丸見えとなることが防止できるからである。

【００６４】

このような建物１Ａによれば、プライバシーに守られ、かつ、明るく開放的な玄関ホール１１とすることができる。また、玄関前通路１３のうちの、開口部１０１Ａ前の屋外吹き抜け空間５０には、たとえば自転車を置いたりすることもできる。

【００６５】

以上説明した本実施の形態では、縦格子６０が、他方の縦フレーム部９２から離れて配置されたが、縦格子６０は、一方の縦フレーム部９１から他方の縦フレーム部９２まで延びていてもよい。

10

【００６６】

また、本実施の形態では、外壁部８０と縦格子６０との間に、屋外床部（インナーバルコニー２３など）が介在されることとしたが、屋外床部がなく、縦格子６０が、外壁部８０に当接または近接して設けられていてもよい。

【００６７】

特にこのような場合には、建物１（１Ａ）は、門型フレーム構造を有していなくてもよい。この場合、下階の正面には、縦格子６０との横に、耐力壁が設けられていてもよい。

【００６８】

今回開示された実施の形態はすべての点で例示であって制限的なものではないと考えられるべきである。本発明の範囲は上記した説明ではなくて特許請求の範囲によって示され、特許請求の範囲と均等の意味および範囲内でのすべての変更が含まれることが意図される。

20

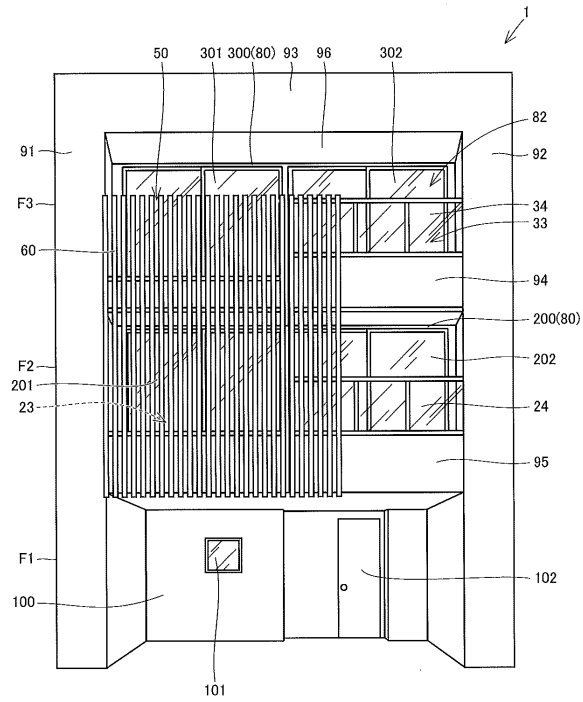
【符号の説明】

【００６９】

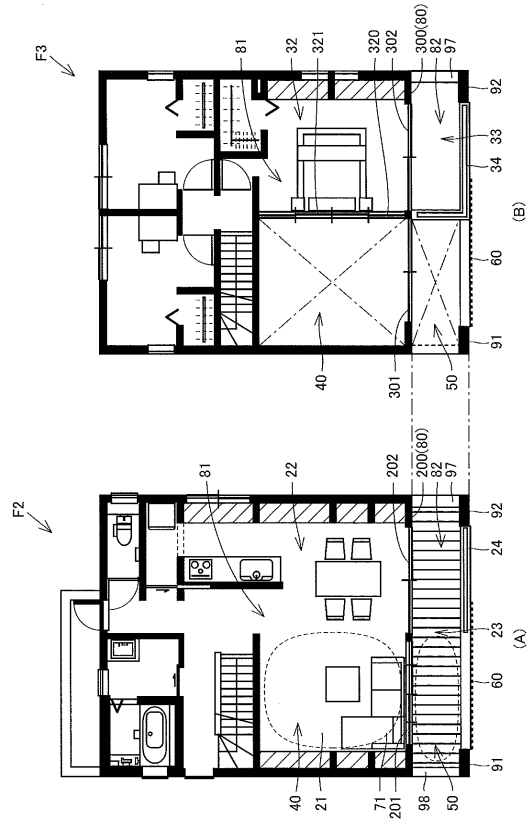
１，１Ａ 建物、１１ 玄関ホール、１２ 玄関土間、１３ 玄関前通路、２１ リビング、２２ ダイニング、２３，３３ インナーバルコニー、２４，３４ 腰高壁、３２ 寝室、４０ 屋内吹き抜け空間、５０ 屋外吹き抜け空間、６０ 縦格子、７１ ソファ、７２ デッキテーブル、７３ デッキチェア、８０ 外壁部、８１ 屋内占有空間、８２ 屋外占有空間、９１，９２ 縦フレーム部、９３～９５ 横フレーム部、９６ 屋外天井部、９７，９８ 側壁、１００，１００Ａ １階外壁、１０１，１０１Ａ，２０１，２０２，３０１，３０２ 開口部、１０２ 玄関扉、２００ ２階外壁、３００ ３階外壁、３２０ 仕切り壁、３２１ 屋内開口部。

30

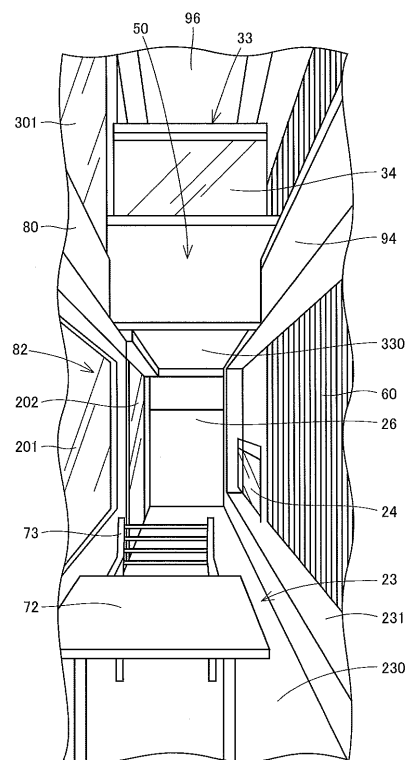
【図 1】



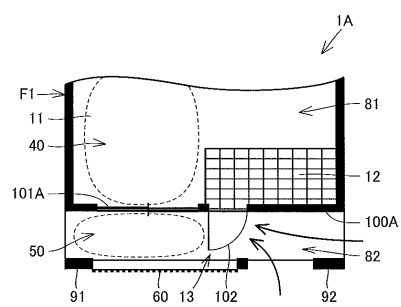
【図 2】



【図 3】



【図 4】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開平08-053983(JP,A)
特開2005-113517(JP,A)
特開2004-346527(JP,A)
特開2011-132672(JP,A)
特開2008-297762(JP,A)
特開2008-095361(JP,A)
特開平10-184039(JP,A)
特開平08-074431(JP,A)
米国特許第05941034(US,A)
東章司建築研究所 AZUMA SHOJI ARCHITECTS, 2018年 8月14日, URL, <http://www.azuma-shoji.net/housing>

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
E04H 1/02